

平成24年度 学校評議員による学校関係者評価結果

平成24年度の教職員による自己評価、保護者アンケート、生徒アンケート、地域の皆様によるアンケートの結果や授業参観、行事の見学、職員との話し合い等を通じて、今年度の学校評議員の方々より学校関係者評価を実施していただきました。

評価は4段階(A:十分満足できる4点 B:満足できる3点 C:やや不十分である2点 D:不十分である1点)

1.学校経営全体に関するもの

No.	項目	評議員評価	平均
①	学校の教育目標は、生徒の実態や保護者、地域の方々の願をふまえたものになっている。	A 2、B 2	3.5
②	日常の教育活動は、経営方針を反映したものになっている。	A 1. B 2. C 1	3.0
③	保護者、地域との連携・協力をすすめる手立てをとっている。	A 1. B 4	3.2
④	1 先生方は、本当によく頑張っておられると思います。 2 教育目標は、理想を掲げ、それに向かって努力する。これに応える生徒は、社会の立派な一員になれることを認識させる必要があるように思います。		

2.学習指導に関するもの

①	本校の学習活動は、生徒の実態や保護者の願いに合ったものになっている。	B 1. C 3	2.3
②	生徒の興味・関心を高め、学力向上のための取り組みがなされている。	A 1. B 3. C 1	3.0
③	1 先日授業参観をさせていただき、生き生きとした授業展開は、教師と生徒のやりとりがあってこそ、と思いました。教えることは、同時に、学ぶことである、と聞いたことがあります。授業のリーダー的な生徒の力を借りて(生かし)学びが身につく実感を、教室全体で味わって欲しいものだと思う。 2 ②について 中学生の教育は、新しい知識等の注入過程において、生徒が感じる充足感や驚嘆等から色々なことに興味・関心が高まることが望ましいと考える。 3 地域との係わりを重視し、新しい試みとして小中一貫した地域を学ぶ学習活動が、実を結ぶことを願っている。		

3.生徒指導に関するもの

①	挨拶や服装等、布佐中生として基本的な生活習慣が身につくよう取り組んでいる。	A 2. B 3	3.4
②	1 全体的には、落ち着いて学校生活を送れているように思います。家庭の事、自分自身の事、友人との事等で、問題の解決がうまくできない時等、自らの気持ちの処理をどうしているか……。人や物を傷つければ、一番苦しむのは自分だと思っています。問題の芽は、小さいうちに気付き、対応は連携(家庭と)が肝要かと思っています。 2 生徒の挨拶については、学校でお見受けする時、気持ち良い挨拶を受け、嬉しく思っています。なお、挨拶の基本は、朝起きた時、家族間で「おはよう」という言葉から一日が始まることで、挨拶の心根を示す大切な一歩と考える。		

4.本校教職員、保護者の皆様に関するもの

1	生徒のアンケートより、授業について、達成率の低いものは、家庭学習のあり様や、保護者の励まし等、家庭生活のあり様も起因しているかと思いました。親御さんからの言葉がけや、生徒の自己実現への喜びにつながっていく事になれば、嬉しいと思いますので、保護者の皆さま、どうか、我が子へ、又、我が子のお友達へ、温かい心と言葉のメッセージを伝えてください…と願う。		
---	---	--	--

5.その他、学校教育全般について、何かございましたらご記入ください。

1	<p>最近の中学生は、礼儀正しく、行事への取り組みも素晴らしいと思います。しかし、何か自分たちの意志が感じられない・・・やられている、もう少し子どもらしさ、のびのびとした生徒たちが見たい。</p>
2	<p>先日、広島県の中学校での教師のスキルアップに関する取り組みの番組を見ました。同教科のみでなく、他の教科の教師を相手に模擬授業をしたり、他の教師の授業に生徒として参加し、互いに学び合い(指摘、提言されたり、自ら気付いたり)、それが、生徒の学力向上につながって来たとの事、布佐中でも、教師の校内研修に取り組んでおられる事は素晴らしいと思います。ご努力は、必ず、生徒たちや先生方ご自身に確かな成果を見る事ができると思います。ここで、気になるのは、取り組みが定着する期間です。管理職の在任期間が2.3年というのは惜しい気がします。</p>
3	<p>手賀沼処理場の放射能汚染対策の問題について、風評被害などが心配されますが、学校側の取り組みは、何かありますか。</p>
4	<p>(1)望む生徒像について</p> <p>①よりよい生活を作り出す方法を考え、その方法を身につけることができる生徒 意見 重い課題と考えます。このテーマは、大人でも出来得ないと思えることを掲げている様に思えます。先ず第一に「より良い生活を作り出す方法を考え」は、「より」は比較することであり、中学生に選択して選ぶ力があるかという疑問が生じます。義務教育の役割は、基本的なことを理解させることにあり、基本的な知識で「より良い生活を作り出す方法」を発見し、身につけることを求めることは、やや性急に過ぎるように思えてなりません。 第二に、社会生活において基本となる知識の代表的なものは、①物権の変動は意思表示による。登記を要するものは登記が第三者に対する対抗要件となるが、登記は公信力を有しないとす物に対する基本的な考え方や②権利の主体となりうるのは自然人と法人で、目に見えない法人が権利の主体となりうる要件などの理解が考えられます。 これらは、いずれも社会生活に欠かせない知識ですが、中学生には、この様なことについて教えられたことが無く、存在すら認識していないにも係わらず生活を取り巻く状況を総覧する力を有しているかの様な期待は、荷が重すぎる感があります。</p> <p>②共生的な態度で、温かい人間関係が作れる生徒 意見 共生とは何か、が問われる指針と考えます。中学生にあつての共生は、たとえば、授業中に、ある生徒が授業に馴染まない態度をとったとき、その者に和し、皆が1人たりとも置き去りにしない温かい雰囲気での授業が出来た、と評価することを肯定するように見えます。 しかし、この風景は、次の様な指摘ができます。この和した時間が20分としますと、30人の生徒に新知識の注入を実に20分×30人=600分、すなわち10時間が失われたことになり、新知識を得ることを目的とした集団には、あまりにも大きい損失とみるべきです。 共生の基本は、ギブ&テイクであり、高いレベルでの共生は、止揚した局面をもたらすと思えます。この様に考えますと、低いレベルでの共生志向は、共生でなく仲よくするなどその場限りの悦楽に墮する危険性があると考えます。従いまして、中学生に仲よくすることの上にある共生を求めることは大いに疑問を感じます。</p> <p>③忍耐強さとたくましい体力を持つ生徒 意見 一見すると部活において持続し成果を高めるため体力をつける。その様な生徒を望む様に見えます。しかし、この様な志向は、誰でも持つ普遍的なもので特記することに馴染むものなのかと思います。従いまして、中学で忍耐強さと体力を課題とする場合は、最も重要な知識習得過程における指針とすることが望ましいと考えます。この視点は、中学で習得する知識は、永い人生を通じて見ると必要最低限のもので、長じて中学時代の課題を振り返って考えますと、難問と考えていた課題が何れも簡単な課題で、中学時代の課題を中学時代に克服する忍耐の欠落は、長い人生において大きなハンデを負うことになるとともに、社会に出てその姿勢の持続なくして、自己を輝かすことが出来ないと考えます。 従いまして、毎日の授業内容を判るまで忍耐強く理解すること努めるとともに、輝きを増すためには、その持続とそれを可能にする大きな要素は体力であることを会得し、この様な姿勢を希求し続けることを培うことが望まれる中学生像である。この様な観点からの明示が良い様に思います。</p>

(2)望む教師像について

①内省的思考力を持つ、信頼される教師

意見

積極果敢さを求める組織においては、内省的と評価されることはマイナスイメージとなります。生徒を教導く立場にある人は、ある意味で積極果敢さが求められると考えます。更に、授業において内省する必要があると認められる事例が生じた場合は、係わりのある先生全員が事例の全容を共有して理解し有効に対処する必要があると思います。この様に思いますと内省的思考力を持つことの意義を明示することが求められる様に考えます。信頼されるとは、授業内容でしょうか、先生間のことでしょうか、それとも父兄との関係でしょうか、あるいは全人格的なことでしょうかと理詰めて問いたくなる指針です。しかし、生徒に知識を授けることは、ある意味では人生の指導者です。そこに信頼を求めることは蛇足に等しいと感じます。反省内省的で信頼を得る教師像を望むことを目にした時、教師の存在意義の深遠さを理解する必要があるように思いました。

②コーチングスキルを持ち、他とコミュニケーションがとれる教師

意見

要約すると「指導力があり同僚と授業方法等について意見交換を厭わない教師」と理解します。このことは、この教師の貢献を望んだ上での期待感を示したものと思われませんが、これには違和感を覚えます。指導体制については、配布された資料(7学校の組織運営状況)に示されている様に「学校はミドルリーダー(分掌主任・学年主任)で成り立っている」ことから、指導体制の構築はミドルリーダーによって行われるべきで、能力があるにしても教師個人にその責を負わせることは運営上好ましくないと考えられます。それは組織的展開が伴わない指導は乱に流れる恐れがあるからです。

②目標、目的を持ち、協働できる教師

意見

教師の責務は文部科学省から明示され、それを忠実に履行することが目標、目的となるのではと考えますと奇異に感じます。また、1人が30人程度の生徒を指導するのですから1人では手に余ることがままあると容易に想像できます。このような事態が発生した時、教師の間では必然的に協働で対処するものと考えておりました。それは、協働で対処することを拒んだ場合は、自分のところで発生した場合に協働を得ることが出来ずに対処出来なくなると考えられるからです。このことを理解しないで協働に参画しない先生は、自分のところで問題が発生した場合は、恐らく対処出来ずに放置し、責任回避に躍起になることと思われま

このことから、この項を考えますと、目標と目的を持たず協働にも応じない教師が存在することを危惧します。そして、このような行動をとる教師が前途ある生徒を指導した場合、何をもちかえらるかを考えますとゾットするものがあります。これに該当する教師は明らかに教師として欠格者です。現在の教育現場において、当然視される業務をお願いしなければならない様な人を指導部門において置く余裕はない筈です。欠格者に対する厳正的確な処置を願うばかりです。

(3)望む学校像について

①笑顔と夢と活気ある美しい学校

意見

笑顔と夢と活気は生徒個人の努力で出来るものであるのに反して、美しいは個別に異なるアプローチを経て実現可能と考え、前者は個人に担わすことになりませんが、美しいを実現するにはどの様にすることが課題で、その実施過程に興味深いものを感じます。実施プロセスを担当した先生にそのご苦労を是非ご説明いただきたいと考えます。

②礼儀正しく秩序のある学校

意見

本項も礼儀正しくは生徒個人の努力で出来るものであるのに反して、秩序をもたらすには学校全体の努力が必要と思われま

③地域社会とつながる学校

意見

学校においてこの様なテーマを持って頂けることに喜びを感じます。地域は、これまで経験したことが無いスピードで高齢化が進んでいます。これに伴い地域では、若い世代に負担を掛けずに生きる新しい地域のあり方を模索しているところも出てきております。この流れの中にあって学校との交流は、若さから来るエネルギーを頂き嬉しい限りです。この様なことから地域として学校に貢献できるものは何かを問う雰囲気があります。新しい道が開かれることを願いたいと思います。